

等と出鱈目を吹いて、暗に虐待防止策を施して置く元氣者も有る、此外に猶、

繪かきくゝと輕蔑するな、是でもヴィナス（美の神）の寵兒たまひも。

何だ此野郎柳の毛虫、拂ひ落せば又する

等有る、高い聲では云はれないが、何をくよくゝの替唄に「何をくよくゝ川端玉章、金のたまるを見て暮す」と云ふのが有る、作者の名はつい逸したが、流石に傍若無人の連中も、此ばかりは敬意を拂つて胡魔化して歌つてるさうな、可愛い所は斯麼いんま所ところに有るんです。

⑥ 依囑製作凱旋門

これについては「東京美術学校近事」（316頁）にも記事があるが、『美術新報』第四卷第十九号（明治三十八年十二月二十日）は一層詳しくこれを伝えている。

○上野の凱旋門 上野黒門口凱旋門は十一月二十二日晝代を組立て十二月十三日建物及裝飾の全部を竣成し、夫より三日間にて上部の置物勝利神獅子及陸海軍人立像を製作し、十五日を以て悉皆工を終たるを以て十七日午前十時より落成除幕式を舉行したるが、右凱旋門は高五十尺幅四十八尺奥行十四尺道高き幅共二十四尺にして、全體の設計は美術學校教授工學士古宇田實氏の擔當に成り、上部置物中央軍神と馬四頭車臺、金鷄、四隅獅子等は美術學校の塑造科にて原型を造り、内部の天井裝飾平和の女神は美術學校教授岡田三郎助氏主任として小林萬吾氏之を助け、正面左右

の陸海軍人は新海竹太郎氏の原型によるものにして、全體クラシック式によれりと。

○上野凱旋門の天井裝飾 美術學校洋畫科の擔任にて、教授岡田三郎助氏の立案下繪に成り、小林萬吾氏外學生十七人晝夜兼行にて描き上げ金鷄を置きしものなるが幅二間長六間の天井に布代繪具代にて研究的に引受けしものなりといふ。其圖柄は左右前後に女神を現はせしものにて、左方の中央には地球を掌上に載せたる名譽の女神を畫き兩側に忠實親和の二神を現はし、忠實の神には犬を添ふ。左方の中央には勝利の女神月桂冠を手にして起ち、平和と融和の二神を従へ、平和の神は其手の果物を鳩の喙ばまんとする所を示し、融和の神は喇叭を携へ、前後には人道と公正とを示せり。猶天井の四圍には檜樹と橄欖樹の枝葉を繞らせり。全體希臘神話に基きしものなりと。

⑦ 学生生活

回顧片々

廣川松五郎（談）

〔中略〕

中學を終へて田舎から出て來た計りの僕は——君達もそうだったらうが——非常に美校入學に憧れてね、どうしても入つてやうと頑張つた。其年の卒業製作展を見に行つたが不思議に印象に残つたのは二つ程のステインド・グラスの圖案で、それが何時までも感銘深く、實に印象的で今でも不思議に腦裡を離れないからおかしいね。それが富本憲吉君の卒業製作だ。

當時はアールヌーボーの全盛時代でよく外國雜誌等にあるあの